

## ウイルスに感染しないために 広報げろ 2021.8

ウイルスが引き起こす多くの病気がありますが、そのほとんどは人が運ぶことによって感染します。感染は、口、鼻、皮膚、粘膜（肛門、泌尿生殖器）などから、飛沫感染、空気感染、接触感染などによって起こります。今後、地球温暖化や人類の社会活動の変化の中で新しい病原ウイルスの感染も起こってくるでしょう。

現在、病原性が解っているウイルスで、主に飛沫感染するのは、インフルエンザ、新型コロナウイルス（COVID-19）、風疹、おたふくかぜ、百日咳、RSウイルス、パルボウイルス（リンゴ病）など、空気感染は麻疹や水痘など、唾液や排せつ物、分泌物などに直接触れたり付着物に触れたりして起こる接触感染はノロウイルス、ロタウイルス、エボラ出血熱、パピローマウイルスなどです。動物が介在して感染するウイルスは、蚊による日本脳炎、デング熱、ウエストナイル熱、ジカウイルス感染症、黄熱など、ダニによる重症熱性血小板減少症候群（SFTS）、犬などによる狂犬病などです。人の血液や体液から感染するのはAIDS(HIVによる後天性免疫不全症候群)、HCV(C型肝炎)、HBV(B型肝炎)などがあります。

感染予防には感染経路を意識した予防策が必要です。マスク、手洗い・消毒、三密の回避が基本ですが最も効果的な予防法は、ウイルスを持っている人と接触しない、近づかない、ウイルスを持っている人を隔離することです。さらにワクチンは病気の発症、重症化を予防するとともに社会を守る働きがあります。

ウイルスは目には見えません。感染しても無症状のこともあります。新型コロナウイルス感染症予防のために、飲食店などでは店員の感染に注意し、店内を清潔に保つように努めていますが、ウイルスは店内から発生するものではありません。ウイルスは人が店内に持ち込むのです。幸いに、ウイルスを持っている人は検査で発見できます。だからこそ検査（PCR、抗原検査）を行って隔離し、非感染者によって社会生活を維持することです。現在の所、ワクチンや治療法のない強毒性のウイルス感染は、感染者の隔離以外に感染の拡大を抑える方法はありません。ウイルスのほとんどは一定の期間が過ぎれば感染者が死亡するか、治療や免疫力によって体から消えていきます。一定期間感染者が移動しなければ感染は広がらないのです。

この冬インフルエンザが少なかったのは、新型コロナの脅威の為にインフルエンザワクチンの接種者が多かったこと、マスク、手洗いなどの予防処置が徹底されたこと、南半球など海外との人流が減ったこと、新型コロナウイルス感染によってインフルエンザウイルスに感染しにくくなったという「ウイルス干渉」という学説などが考えられます。

これらの経験とともに、今までウイルス感染に対する予防ワクチンは大きな効果を上げてきており、新型コロナウイルスワクチンも将来的影響が未確定ながらも現在の危機を逃れるためにも避けて通れない状況にあると思われます。

ワクチンを接種しても完全に感染から逃れることはできませんが、このワクチンによる集団免疫の状況が確立し、ワクチンを接種できない人を守りながら、感染の消退を期待しつつ、基本的な感染予防対策を続けましょう。

金山病院ホームページ内のfromドクターでは、「広報げろ 2020.6 コロナとともに生きる」でも関連したお話を掲載しています。